

第1回 日タイ鉄道ワークショップ

(一財) 運輸総合研究所会長挨拶

サワディー・クラブ。

皆様、こんにちは。運輸総合研究所の会長をしております宿利正史です。

本日は、運輸総合研究所とタイ王国運輸省鉄道局との共催により、第1回日タイ鉄道ワークショップを開催できますことを大変嬉しく思います。

また、このワークショップの開催に当たりご尽力いただきました、多くの皆様に対しまして心から感謝申し上げます。さらに、お忙しい中会場まで足を運んでいただいております皆様、そしてオンラインでご視聴いただいている皆様に対しましても、心から御礼申し上げます。

まず最初に、本日、大変ご多忙の中、来賓としてご出席いただき、そして特別講演を賜ります、アーコム・タイ王国元財務大臣・元運輸大臣に対しまして、心から感謝申し上げます。

また、本日多くの皆様にご講演をしていただきますが、順にご紹介申し上げます。

- ・ 藤田耕三 独立行政法人・鉄道建設・運輸施設整備支援機構 理事長
- ・ 足立基成 国土交通省鉄道局審議官

- ・ アティプー タイ運輸省鉄道局次長
- ・ 竹島晃 国土交通省鉄道局安全監理官
- ・ 谷野充 Japan Transportation Technology 社社長
- ・ 三苫好久 Japan Transportation Technology 社副プロジェクト・ダイレクター
- ・ タヤーコーン タイ運輸省鉄道局安全メンテナンス基準課長
- ・ キットサナ タイ国鉄輸送課チーフ
- ・ キッティタット タイ国鉄輸送コントロール・セクションチーフ

の皆様、心から感謝申し上げます。

運輸総合研究所におきましては、2022 年 6 月と 2023 年 6 月に、タイ運輸省と共催で物流に関するシンポジウムを開催いたしました。また、2023 年 2 月にはタイ観光・スポーツ省と共催で、観光に関するシンポジウムを開催いたしましたが、この観光シンポジウムでの議論を更に深めていくために、タイ観光・スポーツ省と当研究所との間でワーキンググループを設置し、2023 年 12 月から 3 回にわたって、持続可能な観光の実現に向けた議論を行っております。タイ観光・スポーツ省の副次官と、当研究所の専務理事・アセアン・インド地域事務所長であります奥田とが共同議長で議論を進めております。このように、当研究所とタイ政府との間では、重層的かつ継続的な協力関係が構築されつつあると理解しております。

さて、タイ政府と当研究所との協力関係の更なる強化に向けて、本日ご出席いただいております、アーコム元大臣やチャヤタン運輸省次官と意見交換を行っていく中で、まず第一に、鉄道の安全の確保が日本とタイの鉄道行政当局及び鉄道事業者に共通する重要な課題であるという認識に至りました。

そこで、日本とタイの鉄道行政当局及び鉄道事業者などの実務レベルの関係者で、広く情報や知見を共有するためのワークショップを開催することにいたしました。

第1回目となる本日のワークショップでは、

- ① 日タイ双方から鉄道行政の役割、組織、取組などを紹介するとともに、
 - ② 日本側から鉄道の安全に関する法律・制度・取組を中心に、タイにおける安全な鉄道運行に資する情報提供を行い、
 - ③ 次にタイ側から、タイの鉄道の現状と今後の見通しをご紹介いただくことで、タイにおいて鉄道事業への参画や連携を検討している日本の鉄道事業関係者への情報共有をあわせて行いたい、
- と考えています。

人や物を大量に、高速で、かつ定時に輸送することができる鉄道は、国民生活や経済・社会活動に不可欠なインフラです。これまでに鉄道はあらゆる国で経済・社会の発展や国民生活の向上に多大な貢献を果たしてきましたが、人口減少やカーボンニュートラル等の新たな社会課題の解決に向けても、今後さらに取り組んでいく必要があると考えております。

日本における鉄道の課題をいくつかご紹介しておきたいと思います。鉄道の安全性の向上はもちろんですが、その他に、

- ① 新幹線ネットワークの拡充、
- ② 都市間在来鉄道の高度化、
- ③ 都市鉄道ネットワークの充実、
- ④ 地方鉄道の持続性を確保するための再構築、
- ⑤ 貨物鉄道輸送の強化、
- ⑥ 自動運転化など鉄道分野における DX の加速化、
- ⑦ 鉄道分野における脱炭素化の推進、
- ⑧ 鉄道分野における人材の確保・育成、

などなど、重要な課題が山積しているといっても過言ではないと思っております。

したがって、鉄道の安全性の向上以外のこれらの課題につきましても、今後、タイ運輸省と調整した上で、ワークショップを継続的に開催し、日本とタイの両国の実務レベルで、情報と知見の共有を図っていきたいと考えております。

運輸総合研究所及びアセアン・インド地域事務所（AIRO）は、運輸・観光分野において、AIRO の所在国であるタイの皆様と、地に足のついた連携・協働を通じて、日本とタイの運輸・観光分野が共に発展し、また、日本とタイとの絆がより一層深まるよう最大限努力してまいります。

今後とも、運輸総合研究所及び AIRO の活動に対しまして、タイ王国の皆様からの力強いご支援・ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます、私からのご挨拶といたします。

本日は、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。

コップ・クン・クラブ。